

事業概況

装置事業

当期の業績

映像装置のうちシネマ分野では、デジタルシネマプロジェクターの販売台数は増加したものの、需要が拡大している中小型タイプにおいて販売単価の下落が継続しました。一般映像用装置では、アミューズメントパークやイベント向けプロジェクターの販売は堅調に推移した反面、常設タイプの中小型プロジェクターを中心に販売が低迷しました。

光学装置は、スマートフォン関連の各種電子デバイス向け露光装置の設備投資が弱含み、販売が低迷した一方で、液晶パネル製造用装置や有機ELディスプレイ向けエキシマ洗浄装置や、次世代スマートフォンのメイン基板向け直描式露光装置の販売が増加しました。

その結果、装置事業の売上高は前年同期比1.0%減の978億3千4百万円、セグメント利益は7千4百万円となりました。

今後の取り組み

映像装置のシネマ分野ではランプ方式のデジタルシネマプロジェクターの販売台数は減少するものの、レーザープロジェクターの販売増が見込まれます。一般映像分野ではエンターテインメント向け販売が増加し、加えて常設型のプロジェクション・マッピングなど新ビジネスの拡大を見込んでいます。

光学装置は、センサー系電子部品向け露光装置などの需要拡大が見込まれますが、販売拡大より利益重視の戦略により減収の見込みです。

売上高	2017年3月期	2018年3月期 (計画)
映像装置	670億円	725億円
光学装置	285億円	275億円
照明装置他	20億円	25億円
合計	976億円	1,025億円



光源事業

当期の業績

放電ランプのうち露光用UVランプは、半導体関連メーカーおよび有機ELディスプレイ関連メーカーの設備投資が増加したことに加え、ユーザーでの稼働率が高水準を維持しているためリプレイス需要は増加しました。シネマプロジェクター用キセノンランプは、中国を中心にシネマスクリーンの新設が継続しており需要が増加しているものの、価格競争の激化による影響を受けました。データプロジェクター用ランプは、セットメーカーでの新製品拡大により販売が増加しました。

ハロゲンランプは、OA用途において新興国の景気低迷により需要が減少しました。

その結果、光源事業の売上高は前年同期比5.8%減の740億4千6百万円、セグメント利益は81億1千9百万円となりました。

今後の取り組み

放電ランプのうち、露光用UVランプとシネマプロジェクター用キセノンランプは需要増が見込まれますが、価格競争激化による単価下落の影響が懸念されます。一方、固体光源はプロジェクター用レーザー光源の需要拡大などが見込まれ、増収を牽引すると思われます。

ハロゲンランプの需要は横ばいで推移するものと見込まれます。

売上高	2017年3月期	2018年3月期 (計画)
放電ランプ (固体光源を含む)	597億円	625億円
ハロゲンランプ	121億円	120億円
合計	719億円	745億円

